

##見出し

海外研修が成果を

興国繊維商工が新入会

BWC「第115回」定例会

##本文

羊毛ふとんの更なる品質向上（ベストなウールふとんづくり）を目指して活動している、ベストウールクラブ（略称＝BWC、野村利泰会長・正会員7社・賛助会員4社）は、9月13日、東京・中央区八重洲の日本ふとん製造協同組合（略称＝JFMA）会議室で、「第115回定例会」を開催しました。

定例会は、西岡一則幹事の司会進行で開会。冒頭、野村会長が、「昨年からの事業目標（計画）の1つであった、海外研修旅行も無事終了しました。この成果を今後の事業活動に生かしていくと共に、これ以外にも懸案事項が山積していますので、本日は活発な討議を行っていきたい」旨のあいさつを行いました。

引き続き、賛助会員の後藤稔書記が、「第114回のレビュー（議事録）」を報告した後、各議案の審議に入りました。

まず、新入会メンバーの承認について審議。賛助会員の新メンバーとして、興国繊維商工㈱（笠島伸介社長・東京）の熊川浩司部長が自己（社）紹介のために出席、満場一致で入会が承認されました。

また、フランス羊毛協会会長であるラルー社のエリック氏や元会長のアルノー社のヘンリー・アルノー氏ら、海外のシッパー（輸出業者）にも、積極的にBWC入会の要請を行うことになりました。

次に、「2012年欧州研修旅行」の総括について、後藤書記が報告しました。

6月30日～7月7日の行程で、スペイン洗浄工場（マニュファクチャーズ社）、ベルギー洗化炭工場（トライテックス社）の2社を訪問。洗毛工程における品質管理と安全管理を確認しました。

また、フランス・パリにて、フランス羊毛協会とのミーティングを行いました。フランス羊毛協会に、「レーヌマーク」運用ルールの変更、BWCへの協賛金について要望を提出しました。

この結果として、9月12日のフランス羊毛協会の会合において、BWCの要望が受け入れられたとの報告が賛助会員のカネヨウよりなされました。

緊急の懸案（課題）事項である「羊毛の臭いに関する基準作成」については、“不快な臭いがしない羊毛原料のレベルとは何か！”を論議し、「清浄度は1つの目安であって、残脂率の見直しなど、様々な方向から継続的に検討していく」ことで一致しました。

この後、BWCの新事業の展開策として、「製品開発」について、各自が意見を述べました。それによると、近年、ウォッシュャブル製品の要望が多く、ウール製品についても同様です。羊毛はスケールがあり、洗うとフェルト化する欠点があります。

BWCとして、ウォッシュャブル製品や難燃製品など、“時代の要請”にこたえた、付加価値の高い製品開発をしていきます。

また、原料段階での加工方法や、大学との共同研究も視野に入れる、といった声が寄せられました。

そのほか、賛助会員である名川織商、カネヨウ、新入会した興国繊維商工の各担当者から、羊毛を始め、羽毛、合繊、綿花の原料相場などの最新情報が報告されました。

定例会は、後藤利広会計監事の閉会の辞で滞りなく終了しました。

なお、次回（12年最後）の定例会が12月6日に決まりました。